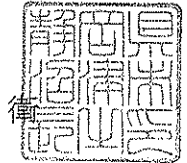




沼建第 12 号
平成 19 年 4 月 25 日

国土交通省道路局長 様

沼津市長 齋 藤



中期的な計画の作成にあたっての意見提出について(回答)

貴職におかれましては、平素から本市に対し格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、ご依頼のありました今後の道路整備のあり方について、下記のとおり回答いたします。

記

I 重点化を進める上で特に優先度の高い政策

1. 渋滞解消のためのバイパス整備

本市では国道 1 号、国道 414 号が市街地を通過しており慢性的な渋滞となっています。通過車両をバイパスへ流すことにより、通過交通及び市内交通が円滑化します。国道 1 号のバイパスとなる東駿河湾環状道路、国道 414 号静岡バイパスなどの整備を優先的に進めていただきたい。また、静岡空港や第二東名が整備され、より遠方から伊豆へ来やすくなりますが、高速道路を出たら大渋滞では効果が半減してしまいます。伊豆縦貫自動車道の早期完成をお願いします。

2. 高速ネットワークの効率的活用

高速道路のインターチェンジ数が少ないため高速道路を出てからが渋滞し、目的地へ到着するまでに時間がかかってしまいます。高速道路のインターチェンジの箇所数を増やすことにより、アクセス道路の渋滞解消と経路短縮の効果が生まれます。よって、設置可能なサービスエリア、パーキングエリアから順次スマート IC を整備していくべきと考えます。

また、同様の趣旨から、東駿河湾環状道路(西区間)においてはインターチェンジを増設していただきたい。

II 効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

1. 国民に理解される道路整備

道路整備に批判的な意見の多くは、「キツネやタヌキしか通らないところに立派な道路を造っている。」という極端な例を挙げて、道路整備全体の不信につながっている。国民の理解を得るためには、なぜその道路整備を進めるのかを明確にすることが必要です。整備項目毎に現状や将来の必要性などを数値化し、数値の高いものから順に事業を進めるべきと考えます。

III その他、道路政策や道路の整備・管理保全に関する意見

1. 市町村管理の道路整備・維持管理に道路特定財源の拡充

地方の道路整備には市税などの一般財源がかなりの部分充当されているのが現状です。このため、国庫補助事業に採択されるような幹線道路の整備事業は別として、生活道路の整備にあたっては受益者に少なからず負担をお願いしているのが現状であり、緊急車両も入れないような古くからの集落内の狭小道路の整備は遅々として進まず、防災面からも課題となっています。また今後、既存道路の維持管理費が増大することは明白であり、その多くの部分を一般財源に頼っている市町村としては、高齢化に伴う福祉関係予算の増加と相まって、きわめて厳しい財政運営を余儀なくされ、道路資産の健全な維持が困難となります。このような状況を推察の上、市町村の道路整備・管理に対する道路特定財源の拡充をお願いします。

2. 環境、人、景観に配慮した道路整備

① 環境に配慮した整備手法の推進

道路整備においても地球環境や周辺住宅地への配慮、事故防止などの観点から新しい技術を積極的に活用しやすいようにしていくべきである。(透水性、保水性、排水性舗装など)

② 人を優先した歩行空間の道路整備

高齢化社会、健康増進志向の高まり、CO₂の削減などの観点から自転車や歩行者が利用しやすくなるよう歩道段差の解消、歩行者や自転車の専用道や専用レーンの設置などバリアフリーの道路整備を進めるべきである。

③ 景観に配慮した道路づくり

景勝地や史跡などの地域については景観に配慮した道路づくりができるよう予算を配分されたい。(ガードレール、照明灯、舗装などのグレードアップ、モニュメントの設置など)

④ 無電柱化の促進

現在十分な幅員が確保されている道路は僅かであり、狭い歩道や道路に電柱があるため歩行者や自転車が危険に晒されている。また、電柱は景観を損ねていることから無電柱化を促進すべきである。

3. 長寿命化と維持管理予算の充実

厳しい財政状況の下、道路ストックの急速な高齢化に対応するべく道路や橋梁の長寿命化対策と維持管理予算を充実させるべきである。